

平成 28 年度 住吉高校学校協議会

平成 28 年 6 月 22 日（水） 午後 6 時 00 分

於：会議室

委員紹介

大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授

放送大学客員教授

笠井 俊夫 様

大阪大学ナノサイエンスデザイン

教育研究センター特任教授

奥山 雅則 様

ベネッセコーポレーション大阪支部

今井 貴文 様

大阪市立昭和中学校 校長

田積 直子 様

住吉高校 P T A 会長

宮川 玲 様

本校出席者：校長、教頭、事務長、久世、矢作、斎藤、兼田、藤井、清水、森口、木村

学校長挨拶

4 月より住吉高校で校長になり、高校入試の改変などを踏まえ、カリキュラムの見直し等の必要を感じている。また、SSH の更新・英語教育等、さらなる充実が必要である。そこで委員の皆様からのご意見・ご協力を頂戴したい。

昨年度の学校協議会で頂いたご意見を踏まえ、学校経営計画を作成しているが、進路実績、SSH 等については更なる検討の余地があると考えている。

各担当者より報告

■進路

国公立大学については昨年度に比べて合格者数が減っている。一方で、京都大学をはじめとした難関大学の合格等、挑戦した生徒については成果を上げている。

近畿大学の合格者数が大幅に増加しているが、現時点での分析として近畿大学の宣伝効果の影響、また、推薦入試のシステムの充実等が背景にあったのではないかと考えている。

その他の傾向として、センター試験を国公立型（5 教科 7（8）科目）で受験する生徒が減少しており、全体的に挑戦しようとする生徒が減少傾向にあることもわかる。

■骨太

H27 年度より SET を配置。2 年生を中心に SET の指導の充実を図っている。iBT80 点以上を受験者全体の 5% 以上にすることを今年度の目標にしている。また 1、2 年生全員受験している GTEC では、1 年生、2 年生の追跡調査から、生徒の成績の伸びが見え、成果を上げている。

■国際交流

国際交流行事は、現在カリフォルニア、ニューヨーク、訪日研究生を受け入れている。また留学生の受け入れ、海外研修も例年通り活発に行っている。

■SSH

今年度末に更新時期になるため、更新のために取り組みを行っている。課題研究の充実に分け、グルー

プ分けの改善を行ったり、英語を用いた発表を行ったりしている。また校内での組織的取り組みのためSSHの体制を確認する会議を管理職を含め行っている。

■ユネスコスクール

住吉高校の授業、学校行事、総合的な学習の時間等、住吉の活動の内容自体がユネスコスクールとして評価されている。今年度は、熊本の地震支援額集会と日韓中ESD学び合いなどを行う予定である。

■生活指導

遅刻者の減少に向け、指導を徹底して行った。昨年と比べ、6月度においては10%増しのペースである。自転車通学について傘さし運転、イヤホン運転等を中心に指導している。4か所の門に10名の教員が立ち、指導を行っているイヤホンは現在、ほぼ0になったが、傘さし運転については、一部見られる。

また違法駐輪はほぼなくなった状況。市の建設局や警察との連携を含め、違法駐輪の数を減らしている。その他、盗難、不審者に向けても徹底して対応している。

討議

進路について

Q 近畿大学の受験者数が増加しているが、本校でのSSHでの取り組みの影響があるのか。

A そこまでの分析はできていない。ただやはり大学の宣伝力の影響が考えられる。また、難関校への挑戦者が減っていることは否めない。

Q 学校としては「大学毎のレベル」をどう捉え、どう指導しているのか。

A 本校では、大学偏差値等のレベルの話よりも、学部や将来を踏まえて行きたいところを見据える必要性を指導している。

Q 住吉高校として進路指導をどのような目標設定をするのか。難関校に挑戦し、リーダーを担う人材を育成するのか、地域の中で育てることを目標にするのか。学校としてのポリシーは何か。

A 学校としてのポリシーは大きく3点。1人1人の生徒を大切にすること。チャレンジする精神を育てること。住吉の伝統と実績を踏まえたうえで、何か新しいことに学校として挑むこと。

生徒は国公立を目指す反面、大学についての知識がないことも課題。本校は専門高校で、入学時点で目的意識が高い子が入ってくるが、それを学校としてどこまで反映できているのかは不明。

- ・国文、総科ごとに進学先を分析する必要がある、そこからSSHの取り組みに必要なことも見えてくるだろう。
- ・住吉高校を受験校に選ぶ理由を調査すべき。

生活指導について

Q 自転車加害者になるという意識を（義務教育で）育てることが必要だと思うが、保護者が自転車の危険性を認識しているのかは疑問。

A 規範意識に関しては、高齢の人ほど改善が必要だと考える。

Q 10人の教職員が朝の登校指導に立つのは、過重労働ではないか。

A 自転車の通学経路の見直しを行い、教師の登校指導に割く人員を減らすことも検討中。

- ・カッパに関しては、安価なので生徒に配布することも検討が必要。

SSHについて

- ・課題となったことに対して、後出しで対応している印象。住吉としての色を出すことが必要では。

様々な活動をしているが学校として何を狙いにしているのかを明らかにするべき。

- ・今年度は「まとめ」の年ということもあるので、成果を明らかにしないといけない。
- ・大阪府の上位校の後追いになってはいけない。住吉としてできることは何か。

委員からのコメント

- ・中学生は普通科志向になりがち。おそらく将来をまだ決めきれていないからか。したがってさらに、住吉のよいところをアピールしていかなければならない。
- ・遅刻件数の減少、中学生から憧れられる高校であることも躍進校に見られる傾向。したがって学校としてのポリシーを明らかにしていくことが同時に必要。
- ・遅刻件数の減少も一過性になってはいけない。継続して減少できるように、教師が一丸となって頑張ってもらいたい。

校長謝辞

ご討議ありがとうございました。頂いたご意見を学校運営に取り入れながら、第二回で良い進捗報告ができるよう努めてまいります。